



第26回日本検査血液学会学術集会 ランチョンセミナー14

血液中miRNAを用いた膵癌の早期発見、診断 ～膵癌がん検診の未来に向けて～

2025年7月27日(日) 11:50-12:40 第6会場(国立京都国際会館 1F Room H)

座長

京都府立医科大学 感染制御・検査医学教室

病院教授

稲葉 亨 先生

演者

京都大学大学院医学研究科 消化器内科学

准教授

福田 晃久 先生

※本ランチョンセミナーは整理券制です。

その他、詳細につきましては、第26回日本検査血液学会学術集会公式ホームページに掲載される情報をご確認ください。

<https://square.umin.ac.jp/jslh26/>



血液中miRNAを用いた膵癌の早期発見、診断 ～膵癌がん検診の未来に向けて～

京都大学大学院医学研究科 消化器内科学 准教授
福田 晃久 先生

膵癌は予後不良な難治性癌です。膵癌は特異的な症状や早期診断に有用なバイオマーカーがないため、早期発見、診断が難しく、Stage I で診断される膵癌は膵癌全体の 5% 程に過ぎないのが現状です。したがって、膵癌早期診断のためのバイオマーカーの開発が強く望まれています。

血液中 miRNA プロファイルは、がんスクリーニングにおけるリキッドバイオプシーとしての有用性が報告されています。我々は最近、アークレイ社との共同研究で、血液中 miRNA および血液中 miRNA と CA19-9 の組み合わせによる膵癌判別モデルにより、膵癌と健常者で膵癌発症の有無を高精度に判別できることを示しました。14 病院から集めた膵癌患者 212 検体と健常者 213 検体をトレーニングコホート（学習群）（ $n = 185$ ）とバリデーションコホート（検証群）（ $n = 240$ ）に分け、次世代シーケンサーで血液中 miRNA の発現を網羅的に測定し、トレーニングコホートを用いて AI によるアンサンブルモデルを使用し膵癌判別モデルを作成し、バリデーションコホートにてその性能を検証しました。

血液中 miRNA と CA19-9 を組み合わせた膵癌判別モデルは、高い精度で膵癌患者（全 Stage）と健常者を判別することができ（AUC : 0.99、感度 : 90%、特異度 : 98%）、早期（Stage 0-I）の膵癌コホート（ $n = 30$ ）（AUC : 0.98、感度 : 77%、特異度 : 98%）や無症候性の早期（Stage 0-I）膵癌コホート（ $n = 21$ ）（AUC : 0.97、感度 : 67%、特異度 : 98%）においても、高い判別精度をみとめました。

血液中 miRNA と CA19-9 を用いた膵癌判別モデルは、膵癌を特異的かつ早期に識別するバイオマーカーになりうると思われました。現在、血液中 miRNA による膵癌がん検診の実用化を目指して、取り組んでおります。

ー アークレイからのお知らせ ー

LINE公式アカウント「検査のアーレイ（医療従事者用）」

セミナーのご案内や友だち限定のコンテンツなどを配信しています。
アーレイから発行している情報誌などの情報も定期的にご案内しています。

友だち追加は
こちらから

